

研究通信

NO. 8

会員部内研究会
農業本部文部省
農業本部文部省
農業本部文部省
農業本部文部省
農業本部文部省
農業本部文部省
農業本部文部省

年報と宿題について

有賀喜左衛門

いろくの共同研究に参加していく中研の
癡りに専念出来ず、村研の仕事がおくれてしま
る事にはすお詫びを申上げねばならない。そ
れだけに今後一層急テンポで村研の仕事を片
づける必要がある。それはいろくあるので、
どうしてか会員諸君からもっと積極的に働き
かけて頂かねばならない。

(一) 年報第一輯「村研社会研究の成果と課題」
の出版はすでにいろく準備して来たが、
途中でやむを得ない事情の下に敦賀貢の変更
もあったが(別説)、出版を引受けてくれた
鶴瀬社との交渉も漸く決定し、本年六月上旬
に全部の原稿を引き渡す事になった。そして
出版予定日九月である。したがつて五月一杯
に原稿を送って頂きたい。

(二) 年報第二輯。これは去年の中止せざり仙
台大会の特請号によるものである。年報は毎年
の大会の宿題による議論の發表とそれを通じて行
する討論を終了後各自がその研究を一層推進

して、研究を飛躍させる。それが境界の距離や
文部省幹事會と同様、小野の目標に爲つた。こ
れは残念な落第が長い間の心配と思つた。この事
は実験結果を提出せねばならないと村研
の内部が騒動となるおそれがあるのを、最初
から討論や説教をへる場を優先として来た。
そのためこの事をもつと細し指めると充分な数
枚が出来ない人々の研究は翌年の年報にのせ
るのを見合せて、一年かそれ以上も延期して
も差支へないし、宿題にマサチした好評文が
あるなら大会で発表されないものでも、のせ
ても良いのではなか。そこにはより余裕を
持てて考えて、年報を編集すべきではない
かも考えておこう。研究の上での本筋のものもの
があつても、それらは餘力として良いものにして
て、ひしはおくれても年報にのせたい。然して
の翌年の年報でなくとも良いと思ふ事である。
仙台大会で発表して頂いた方々には執筆の機
会は当然してあるわけだから、もし不備が
あるとしたら、今から完全に補足して頂きた
い。そして成るべく早く見せて頂いて、研究
集会で検討させて頂いても良い。第二回は時
期の都合で、本年出版出来ないのが(二二
月二十日が火切にして、来年の四月上旬の予
定である。この方日程三ヶ月とつ遅いつして
出す事になつてゐる。

(三) 一九五四年度大会宿題について。この年
の大會の日取りはまだ未定であるが、多分十
月十八日早稲田大学である事になるかと思う。
もう商議は決定していなければならぬが、

宿題に関する会員の意見は、すでに前二局で
発表したもの以外に幾年しておらないので、
決定するのに非常に困つてゐる。この研究通
じで電報で御返事をお願いするわけであるが
お手がかりが無いと思つ。まことに年報にのせる研
究結果を提出せねばならないと村研
の内容が脳筋となるおそれがあるのを、最初
から討論や説教をへる場を優先として来た。
そのためこの事をもつと細し指めると充分な数
枚が出来ない人々の研究は翌年の年報にのせ
るのを見合せて、一年かそれ以上も延期して
も差支へないし、宿題にマサチした好評文が
あるなら大会で発表されないものでも、のせ
ても良いのではなか。そこにはより余裕を
持てて考えて、年報を編集すべきではない
かも考えておこう。研究の上での本筋のものもの
があつても、それらは餘力として良いものにして
て、ひしはおくれても年報にのせたい。然して
の翌年の年報でなくとも良いと思ふ事である。
年報第一輯「村研社会生活研究の成果と課題」
も非常に有難いと思つてゐる。この御返事を
うござる。至急決定したいと思うので是非お願い
する。もし出来たら色々地区で、比較的多くの
人によつて相談して、意見をまとめて下され
ば非常に有難いと思つてゐる。この御返事を
うござる。四月十日迄に頂きたく、四月十六日に開く会
合で最終的に決定したい。

もう一つ宿題に関する申上げたの事は、新
しい種々の問題もすでに多少見られたが、未
だに多岐に亘るようでは決定に困るのでは、な
るべく前段及び前々段にのせられたA氏とB
氏との意見について採択される方向を行つて
下されば幸甚と思つておる。(東京教育大)
年報第一輯「村研社会生活研究の成果と課題」
執筆者の変更

理論の部
農村の部
経済 大内 力(東京大学)(原案小池基之)
人口 中島太郎(筑波大)(原案野瀬信雄)